第２学年　道徳科学習指導案

１　主題名　　誰に対しても（Ｃ　公正，公平，社会正義）

２　教　材　 「森のしたてやさん（一部改作）」　出典「２年生のどうとく」　文溪堂

　　　　　　 「図書館の本（一部改作）」　出典「子どもが考え，議論する問題解決型の道

　　　　　　　 徳授業」　図書文化社

３　主題設定の理由

（１）子供の実態について

　本学級の子どもたちは，楽しいことが好きで，休み時間にはいろいろな遊びをして楽しんでいる。しかし，自分の感情や損得にとらわれ，偏った言動を目にすることが多い。ドッジボールをすると，仲の良い友達と同じチームになりたいと主張する子や，チームのメンバーに納得がいかず，終始不満げな顔をしている子がいる。大縄では，跳ぶのが苦手な子に縄を回させようとすることもあれば，ブランコを代わって欲しい子がいるのを知りながら，ずっと独り占めして乗る子もいる。自己中心性の強い発達段階である２年生にとって，公正，公平に行動することは容易ではないが，本時の学習から，ふだんの生活を振り返り，利害に左右されず接することのよさや必要性を知り，それに対する自己課題を見つけてほしい。

（２）道徳的価値について

人間関係において，人を好きになったり，お互いの仲を深めていったりするのは自然なことである。しかし，自分の好き嫌いや，相手との関係の優劣により，偏ったものの見方や考え方を払拭しきれない現実がある。いじめの問題も，こうした偏見や差別が背景になって起こる場合が多い。「公正，公平」は，平成元年の小学校学習指導要領の改訂で，低・中学年の内容項目から削除されたが，いじめ問題への指導の充実のため，平成２７年の改訂で再度扱われることになった。このことから，公正，公平に振る舞うことの大切さは，低学年から理解すべき道徳的価値であると考える。

（３）教材について

前半の教材「森のしたてやさん」は，うさぎの仕立て屋が注文を受けた客に対し，洋服を作る順番を考える話である。「最初に来たさる」「意地悪なきつね」「仲良しのくま」という，うさぎとの関係が異なる三者の依頼に対し，誰の服を先に作るか悩むところが道徳的問題となっている。自分より強い立場の子や仲の良い子など，相手との関係で自分の行動が左右されてしまう面の強い2年生の子どもにとって，公平な言動について考えることができ，本主題に用いるのに適切な教材である。後半の教材「図書館の本」は，価値の再確認と実践への意欲を高めるために用いる。子どもの実生活に近い場面で「森のしたてやさん」と共通した問題の解決策を考える。ここでは，１年生を登場させることで，弱者がいる場合はどう対応したらよいかを問い掛け，問題解決の応用を図る。

（４）豊かな心とたくましさを育むための手だて

　①かかわり合うための心を育てるために

・多面的に考え，解決策を検討する

授業前半では，教材「森のしたてやさん」を使い，「うさぎは，誰の洋服を先に作ればよいか」を問う。「意地悪をされそうだから」きつねを先にする，「仲良しだから」くまを先にする，といった自分の利害を優先した解決策に対し，「それでみんなは納得するか」を問う。うさぎ以外の登場人物の立場で検討することで，主題に対し多面的に考えさせたい。また，「順番どおりに作る」意見については，「仲の良い子は優先しなくていいの」と問い返し，ふだんの生活での偏った言動について想起させる。公平に振る舞うことの大切さと，その実現の難しさを，自分の経験と照らし合わせることで理解させたい。

②かかわり合うための技を育てるために

・新たな場面を提示し，道徳的価値に対する考えを深める

授業後半では，子どもたちの生活に起こり得る場面を，教材「図書館の本」を使って提示し，自分とのかかわりにおいて問題の解決策を問う。立場の弱い１年生がいる場合の解決方法を考えることで，順番を守ることだけが公正，公平ではないことに気づかせたい。２つの教材から，その場の状況や条件に応じ，誰もが納得することが，公正，公平において大切であることを理解させたい。

　③個を見つめ、伸ばす評価をするために

・自分や他者とのかかわりを評価する

道徳的価値に対する個々の考えがどのように変わったり，深まったりしたかを把握する。

本時では，話し合い，聴き合いの様子や振り返りの記述から，道徳的価値が理解できたか，実践への意欲をもてたかの２点を評価する。その際，自分の生活や考えを見直していることや，友達の意見を聴き，多様な感じ方や考え方があることに気づけたかを認め，声掛けや朱書きで称賛する。また，ふだんの行動を振り返り，公正，公平に行動する難しさを理解できたことに対しても，共感的理解をもって受容する。

４　本時の目標

1. 登場人物の状況や気持ちから，問題の解決策を考える活動を通して，公正，公平に接することの大切さに気づく。
2. 他者に対し，自分の好みや利害に左右されずに接しようとする態度を育てる。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 児　童　の　活　動 | 教　師　の　活　動 |
| きづく  (3)  つかむ  (5)  ねる  (10)  ふか  める  (10)  みつ  める  (10)  あたた  める  (7) | １ 並んでいるときの，横入りをどう思いますか  ・横入りはだめ→後ろの人がいやな思いをする。  ・友だちだったら，入れてあげようかな。  ・「入れてあげるよ」って言われたら，どうしよう。  ２ 「公平」について考えよう  ３ うさぎが困っているのは，どんなことですか  ・うさぎが，「急いで作ってあげる」とみんなに言ってしまったこと。  ・急いで作ってあげたいが，同時には作れないこと。  ４　うさぎは，誰の洋服を先に作ればよいですか  《くま》  ・仲良しの友達だから，先に作ってあげたほうが喜ぶ。  ・ないしょで先に作ればいい。  《きつね》  ・遅いと，意地悪されるかもしれない。  ・こわいから，先に作ったほうがいい。  《さる》  ・頼まれた順番だから，一番に作った方がいい。  ・急いでるから，早く作ってあげなきゃ  ５　さる，きつね，くまは納得しますか  ・やっぱり，頼まれた順番に作るのがいい。  ・順番を抜かされたら，嫌な思いをするよ。  ・好き嫌いや，仲が良いかどうかで決めるのは，よくない。  ・友達だから早く作ってあげたいけど，不公平だ。  ・注文を受けるときに，「順番に作るね」と言っておけ  　ば，みんな納得する。  ・急ぐ理由を聞いて考えたらよかったかな。  ６　こんなとき，あなたはどうしますか  ・順番を守ることは大切だけど，１年生が読みたいなら，先に読ませてあげるといい。  ・急いでいるかどうか聞いてから決める。  ・一緒に読めるなら，みんなで一緒に読む。  ７　今日考えたことから，どんなことが大事だと思いましたか  ・いやな思いをする人がいないようにする。  ・自分の好き，嫌いだけで決めない。  ・みんながすっきりすることが大切。  ・順番も大事だけど，小さい子を優先するのも大事。 | ・身近な問題を提示し，ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。  ・自分の利害を優先してしまうときがあることを押さえる。  ・教材文「森のしたてやさん（一部改作）」を範読する。  ・登場人物の個々の事情や，うさぎとの関係を押さえ，問題点を明確にする。  ・ワークシートを配付し，考えを書く時間をとる。  ・机間指導をし，助言や称賛を与える等の個別支援を行う。  ・個人の考えを把握し，話し合いや指名に活用する。  ・優先順位をつけた理由も書くよう助言する。  ・理由や結果をふまえて，誰  　もが納得する解決方法であ  　るかどうかを問い掛ける。  ・「順番に作る」に対し「仲の良いくまは優先してあげなくていいの」と切り返し，公正，公平に対する考えを深めるよう支援する。  ・二，三番になった相手への  　断り方も考えるよう促す。  ・児童の日常生活に即した場  　面で，活動４，５で考えた  　ことを応用できるようにする。  ・教材文「図書館の本（一部改作」を範読する。  ・弱者（１年生）への配慮ができた児童の考えを認め，称賛する。  ・公正，公平についての考えを整理するために，本時の振り返りをワークシートに書く時間をとる。 |

６　評　価

1. 優先順位の問題を考え，解決することを通して，状況や立場をふまえた上で，誰もが納得する判断や行動が公正，公平につながることを理解できたか。

　　　　　　　　　　　　　　　（活動４，５，６の発言，ワークシートの記述から）

1. 友達の意見を聴いたり，自分の考えや生活を振り返ったりすることを通して，好き嫌いや損得にこだわらずに生活しようとする気持ちをもつことができたか。

　　　　(活動５，６の発言，活動７のワークシートの記述，その後の行動の様子から)

７　板書計画

